

平成26年度入学試験問題（後期）

小論文

（教育学部 学校教育教員養成課程 学校教育専攻 教育科学専修）

【注意事項】

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いて見てはならない。
2. 印刷の不鮮明な箇所等がある場合には、申し出ること。
3. 解答用紙と下書き用紙を別に配付してあるので確認すること。
4. 解答は、解答用紙に記入すること。解答用紙以外に記入したものは無効である。
5. 解答用紙の一つのます目に一文字ずつ入れること。
6. 解答用紙の指定された欄に、学部名及び受験番号を記入すること。
7. 配付された解答用紙は、持ち帰らないこと。
8. 配付された問題冊子及び下書き用紙は、持ち帰ること。

問題

文部科学省は平成4年9月から学校週5日制を段階的に実施してきた。平成8年の中央教育審議会答申では、子どもに「ゆとり」を確保するなかで、学校・家庭・地域社会が相互に連携しつつ、子どもに生活体験や社会体験など様々な活動を経験させ、自ら学び自ら考える力や豊かな人間性などの「生きる力」を育むために、完全学校週5日制の実施が提言された。この提言を受け、平成14年度から完全学校週5日制が実施されている。

一方、現在文部科学省は、子どもの土曜日における充実した学習機会を提供する方策の1つとして土曜授業を捉えている。次の2つの記事を参照しながら、土曜授業（学校週6日制）に対するあなたの考えを800字以内で論じなさい。

(社説) 土曜授業 答えを急ぐことはない

著作権の関係上、省略します。

朝日新聞 2013年1月21日

(社説) 学校週6日制 学力向上へ土曜を活用したい

著作権の関係上、省略します。